

登米の力 とめのちから 登米の地から

みやぎ地域づくり団体協議会登米支部交流会を開催しました！

地方振興部

令和2年2月6日（木）に登米合同庁舎で「みやぎ地域づくり団体協議会登米支部交流会」を開催し、登米支部会員や登米地域の振興に尽力されている方などが参加しました。この交流会は、他地域の事例を通じ、今後の活動推進のために必要な知識や視点を学んでもらうとともに、情報交換を行うことで会員等の情報共有、交流を図ることを目的として毎年開催しているものです。

今回は、NPO法人おおさき地域創造研究会（以下「きらっと」）の代表 白旗 成典 氏と事務局 長 小玉 順子 氏を講師にお招きし、講演とグループ対話を行いました。

白旗氏による講演では、「話し合いで進める地域づくり」をテーマに、「きらっと」が行うコミュニティ支援や移住・定住支援の取組内容、「ワールド・カフェ」という話し合いの手法などについてお話をいただきました。また、「色々な声を拾い上げて行動することが大事」、「話し合いをすれば、後悔することや、遠回りをして結果にたどり着くことがなくなり、無駄がなくなる」

といった地域づくり活動にあたっての、必要な考え方についてもお話をいただきました。

小玉氏を講師としたグループ対話では、「ワールド・カフェ」を実際に体験しました。この話し合いの手法は、「ただ、会って話す」という場を提供するものです。少人数でグループを作り、時間が経ったら1人を残して、他のグループに移動するというやり方で、短時間で様々な人と対話することができます。

今回は、自己紹介（名前、今日はどこから来たのか、自慢できること、話し合いをする際の悩み）をした後、「地域の若い人を誘い込むにはどうすれば良いか」について自由に話し合いました。

参加者からは、「参加するたびにこういった交流会の必要性を感じる。」、「自己紹介の仕方など、ワークショップの進め方が参考になった。」などの感想をいただきました。今回の交流会が、今後の地域づくり活動や様々な世代との交流促進に役立つことを期待しています。



講演の様子



グループ対話の様子

“笑顔を運ぶ奇跡の一粒” いちご新品種「にこにこベリー」

農業振興部

農業・園芸総合研究所が県主力品種「もういっこ」と栃木県の「とちおとめ」を交配してできた、いちご新品種「にこにこベリー」がデビューしました。果肉は鮮やかな赤色で、甘さと酸味のバランスが良いのが特徴です。登米地域では米山町を中心に、令和元年度から生産されています。

農業振興部（登米農業改良普及センター）で

は、にこにこベリーの生産を盛り上げるため、普及展示ほを設置し、農業・園芸総合研究所等との巡回指導や現地検討会など、栽培技術の向上に取り組んでいます。

道の駅三滝堂などで販売していますので、「笑顔を運ぶ奇跡の一粒」をぜひ味わってみてください。



いちご新品種「にこにこベリー」



現地検討会の様子

みやぎの肉用牛パワーアップ事業で肉牛経営の省力化

東部家畜保健衛生所

宮城県では、肉用牛経営の省力化を推進するため、平成29年度から「みやぎの肉用牛パワーアップ事業」を実施しています。同事業は、発情発見装置や分娩監視装置等の労力軽減機器を導入する際の費用を3分の1以内で、最大50万円まで補助をするという内容で、これまで登米市内にはこの事業を使って発情発見装置が4台、分娩監視装置が16台、その他監視カメラ等が11台導入されています。

発情発見装置と分娩監視装置は、牛の足等に取り付けたセンサーで牛の歩数や体温等の変化を測定し、発情や分娩の兆候を飼養者のスマートフォン等の端末装置に知らせることで適期の授精や分娩事故の防止等につなげるものです。

県では今年度も同事業を行うこととしており、こうした機器の活用で登米市での肉用牛生産の基盤が一層強化されることが望まれます。



発情発見装置の一例①



発情発見装置の一例②

伊豆沼2工区地区「環境調査」を実施しました

農業農村整備部

平成28年度から令和元年度まで、ほ場整備工事を実施した「伊豆沼2工区地区」で生き物の生息調査を実施しました。

ほ場整備工事に際して、コンクリート水路の途中に「お助け工」という施設を作りました。これは、コンクリート水路では今までの土水路より水の流れが速くなり、カエル（両生類）やメダカ（魚類）が流されたり、田んぼに登れなくなるため、これらを防ぐために作ったものです。コンクリート水路の途中に水の流れを遅くする「お助け

工」を作ることで、カエルやメダカが田んぼに登って産卵したり、生息できたりするようにしました。

調査の結果、多くの生き物を確認することができ、「お助け工」を設置した効果が確認されました。

今後も、環境に配慮した工事を進めるとともに、関係者と適切な維持管理を行い環境保全に努めていきます。



生き物調査状況



お助け工

登米市の森林認証広葉樹家具「kitakami」の取材

林業振興部

登米市の森林認証広葉樹材で作る家具ブランド「kitakami」を、ミヤギテレビで放送している人気番組「OH!バンデス」で特集したいとの要請を受け、登米管内の現場取材に協力・同行しました。

当日の取材では、登米町森林組合の會津浩幸さんが、森林認証による環境配慮や持続的な森林資

源の利用、日常生活の中で目にするのある森林認証マークのPR、エネルギー資源の転換や原発事故の影響で利用されなくなった薪炭林など、広葉樹林の資源を家具として活用している取組をリポーターの方に説明しました。

（2月4日に放送されました。）



津山町で広葉樹の伐採現場を取材



登米町森林組合で製材工程を取材

大規模災害時のHOT対応避難所運営訓練を実施しました

東部保健福祉事務所登米地域事務所

東日本大震災では、停電や医療機関の機能喪失のため、在宅酸素療法患者（以下「HOT患者」という。）は、長期にわたり酸素の供給が困難な状況に陥りました。このことから、大規模災害時においても、HOT患者に円滑に酸素を供給できる支援体制を整備するために、登米市民病院、登米市医師会、登米市、在宅酸素事業者、登米保健所で構成する研究会において検討を重ね、令和元年9月に「大規模災害時の在宅酸素療法(HOT)患者支援体制運用マニュアル」を策定しました。

そこで、マニュアルに基づいた対応や手順等を確認するとともに、関係機関が大規模災害発生時に適切かつ迅速に対応できることを目的に、令和2年1月23日（木）、「大規模災害時のHOT対応避難所運営訓練」を登米保健所で実施しました。

訓練には、行政機関のほか、HOT対応避難所となる公民館、在宅酸素事業者としてフクダライフテック南東北(株)に参加いただきました。

大規模災害を想定したシナリオに基づき、HOT対応避難所開設指示などの情報伝達訓練やHOT対応避難所の設置、HOT患者の受入訓練、自家発電

機及び酸素濃縮器の稼働訓練などの一連の流れについて確認を行いました。

訓練は、HOT対応避難所での対応を想定し、自家発電機を稼働させ、酸素濃縮器から実際に酸素供給を行うなど、より実践的な内容としました。また、フクダライフテック南東北(株)伊藤氏から酸素濃縮器の具体的な取扱方法や特に注意しなければならない点などを丁寧に説明していただき、酸素濃縮器についての理解が深まるとともに避難所での対応イメージを共有することができました。

訓練後の意見交換においては、「災害時の連絡系統の確認や体制の整備を進めていきたい」、「実際に酸素濃縮器を見ることができ、有意義な訓練となった」など、多くの意見が出されたほか、登米地域災害医療コーディネーターからの助言をいただきました。

今後も定期的に訓練を実施し、システムの運用を図ることで、大規模災害が発生した時にもHOT患者が安心して暮らせるように取り組んでまいります。



訓練の様子①



訓練の様子②

〈登米保健所 疾病対策班からのお知らせ〉

国内で新型コロナウイルス感染症の発生が報告されています！

～予防のためにできること～

- ・トイレの後、調理の前、食事の前、外出後などに石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・咳やくしゃみが出るときは、マスクを着用したりタオルで鼻と口を覆うなど、咳エチケットを心がけましょう。
- ・換気の悪い空間や人混みを避けましょう。また積極的に換気しましょう。

一般国道346号 錦織バイパスが開通しました

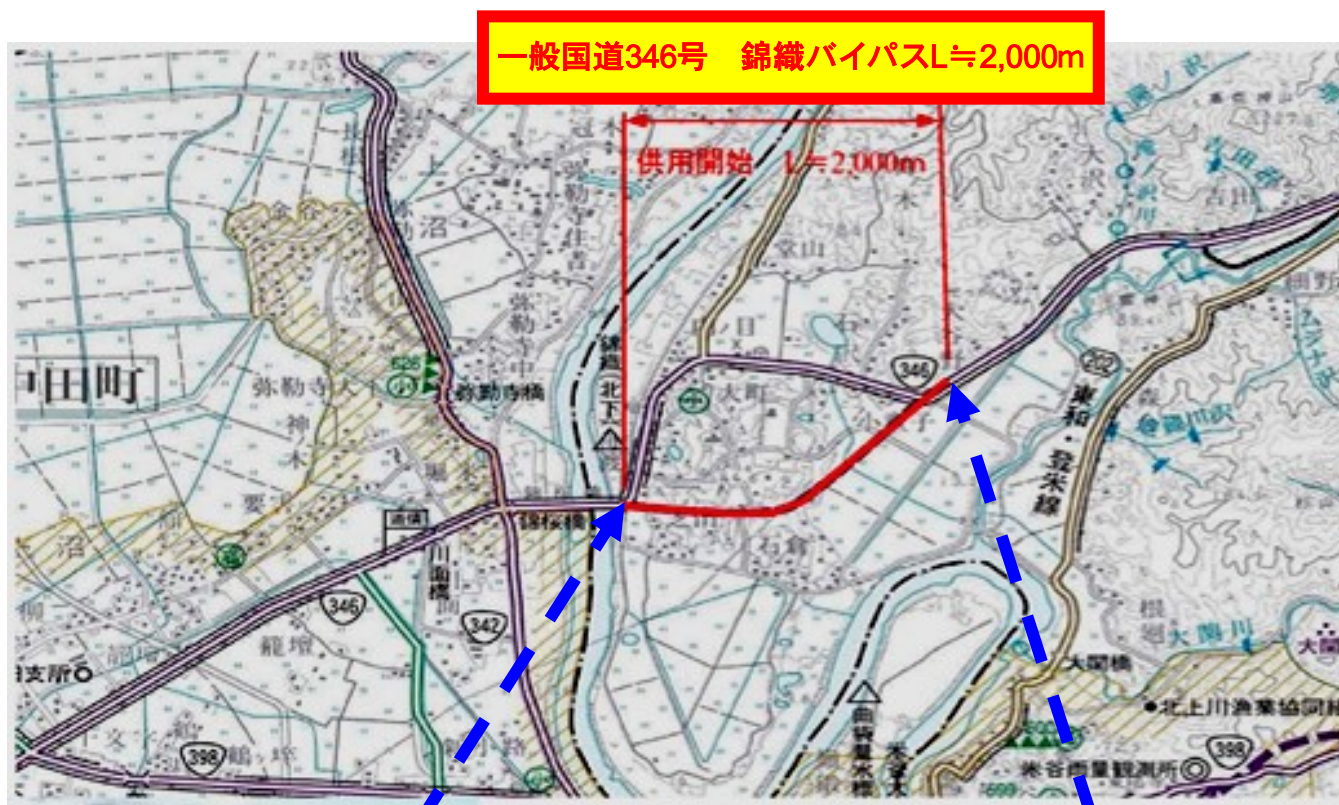
東部土木事務所登米地域事務所

令和2年3月7日に登米市東和町の「一般国道346号 錦織バイパス」が開通しました。

一般国道346号は、仙台市青葉区と気仙沼市を結ぶ、延長111.2kmの路線です。登米市東和町錦織地区の市街地を通るこの道路は、幅員が狭小で、急カーブなどの屈折箇所が多く、大型車同士のすれ違いが困難な状態であったため、今回

整備が行われました。

バイパスが開通したことで、歩行空間の安全が確保されるだけでなく、車両の円滑な通行や時間短縮が期待されます。また、住民生活の快適性の向上が図られるとともに、災害時の緊急輸送路としての機能も確保されることとなります。



↑位置図



錦織バイパス始点側



錦織バイパス終点側

令和2年4月発行/宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所（地方振興部）
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
TEL:0220-22-6123 FAX:0220-22-7522